

## ◆地域活動

# 宮古総合実業高校アーサ養殖体験（宮古地区）

宮古農林水産振興センター 田村裕・上原祐大朗

### 1. 目的

宮古総合実業高校に新しく開設された海洋科学科沿岸漁業コースは、沿岸漁業に従事する生徒を育てることを目指しており、平成26年度は2年生前期に海ぶどう養殖、後期にアーサ（和名：ヒトエグサ）養殖を学ぶ。宮古島漁協生産者が協力し、養殖品目として有望なアーサの養殖作業を体験することにより、担い手育成につなげる。

### 2. 活動内容

実習は宮古島で最もアーサ生産量の多い大浦湾で行われた。

#### 網張り（9月1日：月、4日：木）

普及員がアーサの生活史と養殖のスケジュールを説明し、仲本指導漁業士の指導で、鉄筋打ちや網張りを体験した。生徒は網やひもの扱いになれていない様子だったが、徐々にロープワークが上達していった。



#### 栽培管理（9～2月、毎週2回）

週2回1～2時間の授業で、生産者の網の雑藻とりや泥落とし、レベル調整などを見学した。また、漁業者の網を借りて、指導を受けながら、自分たちでも栽培管理を体験した。

#### 収穫体験（2月16～17日：月～火）

漁業再生支援事業を活用し、これまで栽培管理を行ってきた海洋科学科と以前から毎年収穫・加工体験を行っている食と環境科（旧食品科学科）の生徒が収穫体験を行った。

普及員が収穫方法を指導し、収穫後は生産者との交流を行った。海洋科学科の生徒が育てたアーサを収穫する事で、地元産食材の加工を学んでいる食と環境科の生徒にも生産の一連の流れを知ってもらい、水産物加工品開発に役立ててもらおう。

生徒達は生産者と交流しながら、楽しそうに収穫を行っていた。今回は授業の都合で2科の体験が別日程になってしまったが、海洋科学科の生徒から栽培管理の様子を報告してもらったり、生産の苦勞を伝える内容もあればよかったかもしれない。



### 加工体験（2月24・26日：火・木）

海洋科学科の体験学習の最後に、宮古島漁協アーサ加工場での加工実習を行なった。2日間で受入れ、洗浄、脱水、ほぐし、異物除去、乾燥、パック詰めの一連の工程を体験した。生徒達は自分たちの作業したものがそのまま製品となって販売されるため、緊張しながら、真剣に実習に取り組んでいた。



### 3. 結果と考察

海洋科学科の生徒9名が半年間にわたる授業で、アーサ養殖と一次加工の全工程を体験することができた。

卒業後すぐに就漁を希望する生徒は少ないが、今回の体験をきっかけに、養殖業への興味と理解を深め、関連産業への就職に役立ててほしい。アーサ養殖は高齢でも取り組みやすいので、将来的に参入する可能性もあり、市や県の相談窓口や漁協組織、漁業権制度について理解してもらうことは有効である。

今後は、生徒へのアンケートを実施するなどして、実習の効果評価を行い、就漁促進につなげていく必要がある。

本活動は、担い手の確保を目的として、宮古島市の漁業再生支援事業を3年間活用してきたが、収穫・加工体験や漁業者との交流だけでは、実際に就漁する生徒を確保することは難しいと感じている。アーサ養殖は地元の方が利用する海岸でおこなれるため、新規漁場の開拓が難しく、宮古島では、漁業集落出身者以外が利用できる漁場はほぼないことが課題である。また、生産物のほとんどが漁協を通して出荷されるため、漁協側の加工、販売体制も必要である。そもそも、生徒の進路に藻類養殖業という選択肢がないため、年齢の近い若手生産者によるモデルケースの提示も必要である。

このように、担い手確保のためには、漁業者、漁協、学校、市、県が協力して総合的な対策を講じる必要がある、今後は各組織の役割を明確にし、協力体制を作っていくことが望ましい。